

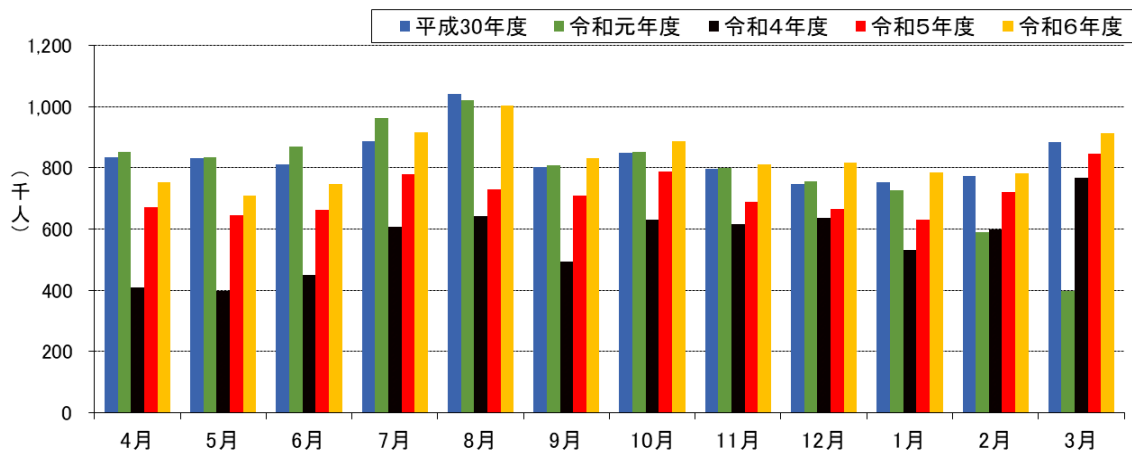
令和6年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和7年6月発表

令和6年度 995万2,700人
対前年度(R5)比 +142万100人、+16.6%
年度では過去2番目
※過去最高年度(H30)比 △5万1,600人、△0.5%

入域観光客数（国内＋外国）

■月別入域観光客数の推移（平成30年度、令和元年度、令和4～6年度）



■令和6年度入域観光客の状況（令和5年度・平成30年度との比較）

	(千人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度	752.3	710.4	748.0	915.4	1,003.8	830.9	886.9	811.2	816.4	783.4	781.4	912.6	9,952.7
令和5年度	669.8	645.2	663.4	778.8	728.6	710.1	788.3	688.2	666.7	629.2	719.2	845.1	8,532.6
増減数	82.5	65.2	84.6	136.6	275.2	120.8	98.6	123.0	149.7	154.2	62.2	67.5	1,420.1
増減率	12.3%	10.1%	12.8%	17.5%	37.8%	17.0%	12.5%	17.9%	22.5%	24.5%	8.6%	8.0%	16.6%
平成30年度	833.2	830.9	809.7	885.8	1041.5	801.5	849.3	795.2	747.5	753.5	772.2	884.0	10,004.3
増減数	-80.9	-120.5	-61.7	29.6	-37.7	29.4	37.6	16.0	68.9	29.9	9.2	28.6	-51.6
増減率	-9.7%	-14.5%	-7.6%	3.3%	-3.6%	3.7%	4.4%	2.0%	9.2%	4.0%	1.2%	3.2%	-0.5%

■令和6年度の概況（総括）

令和6年度の入域観光客数は995万2,700人となり、対前年比で142万100人増（16.6%増）となった。また、これまで最多を記録した平成30年度に対して99.5%の水準まで回復し、過去2番目となった。

令和6年度は、国内観光客数が過去最高を記録したほか、外国人観光客数についても、国際航空路線やクルーズ船の再開・新規就航によりコロナ禍前（平成30年度）の水準に段階的に回復している。

令和7年度については、国内観光客数が好調な状況であること、外国人観光客数が航空路線の増便・新規就航があることやクルーズ船の寄港が多数予定されていること等から、引き続き好調に推移すると見込まれる。

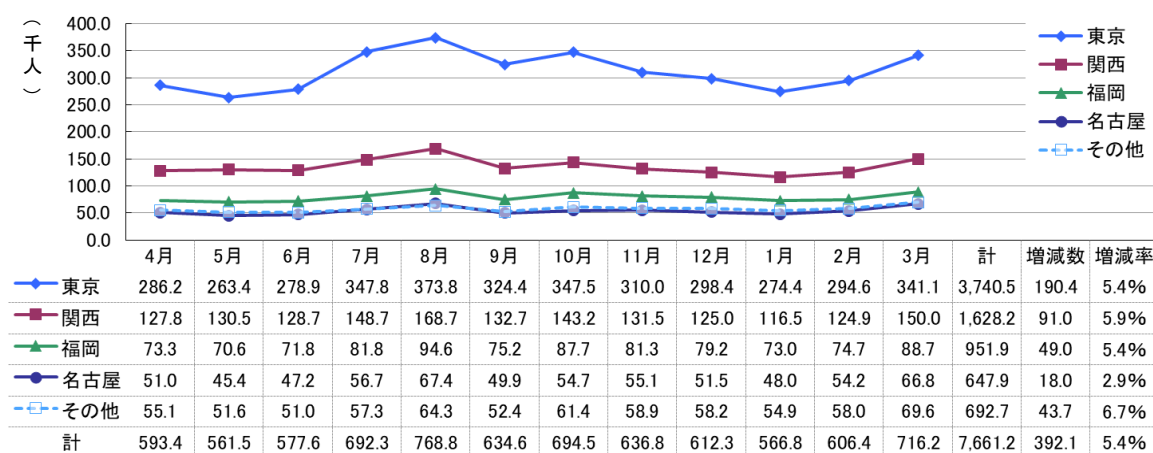
国内観光客についての動向

■令和6年度国内観光客の状況（令和5年度・平成30年度との比較）

（千人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度	593.4	561.5	577.6	692.3	768.8	634.6	694.5	636.8	612.3	566.8	606.4	716.2	7,661.2
令和5年度	603.1	575.3	585.7	663.6	632.2	603.5	672.9	597.1	571.5	508.8	574.4	681.0	7,269.1
増減数	-9.7	-13.8	-8.1	28.7	136.6	31.1	21.6	39.7	40.8	58.0	32.0	35.2	392.1
増減率	-1.6%	-2.4%	-1.4%	4.3%	21.6%	5.2%	3.2%	6.6%	7.1%	11.4%	5.6%	5.2%	5.4%
平成30年度	556.4	514.6	534.6	595.0	741.5	571.0	602.8	604.1	570.3	523.7	532.1	657.4	7,003.5
増減数	37.0	46.9	43.0	97.3	27.3	63.6	91.7	32.7	42.0	43.1	74.3	58.8	657.7
増減率	6.6%	9.1%	8.0%	16.4%	3.7%	11.1%	15.2%	5.4%	7.4%	8.2%	14.0%	8.9%	9.4%

■国内観光客の状況（方面別の月別推移）



【方面別の動向】

東京方面

4月～6月は、航空便の提供座席数の減少に伴い、前年同期比で減少となった。7月以降は台風等の大きな影響もなく、夏休み・年末年始期間中における臨時便・増便・季節運航及び年間を通しての輸送実績が好調に推移したこと等から、前年度を上回り過去最多を記録した。

関西方面

夏休み期間中における増便及び年間を通しての輸送実績が好調に推移したこと等から、前年度を上回り過去最多を記録した。

福岡方面

年間を通しての輸送実績が好調に推移したこと等から、前年度を上回り過去最多を記録した。

名古屋方面

夏休み期間中の増便、年末年始期間中の臨時便・季節運航及び年間を通しての輸送実績が好調に推移したこと等から、前年度を上回り過去最多を記録した。

■国内観光客の概況

令和6年度は、4月～6月期は前年同期比で減少となったが、7月以降は台風等の大きな影響もなく、連休期間中の旅行需要を見込んだ航空会社による増便・臨時便・季節運航等の実績が好調に推移したことから、前年度比で増加となった。年度では、これまで最多であった令和5年度を上回り過去最多を記録した。

令和7年度は、引き続き各方面からの輸送実績が好調に推移することが見込まれるほか、国内発着のフライ&クルーズが複数回予定されていること等から、堅調に推移すると見込まれる。

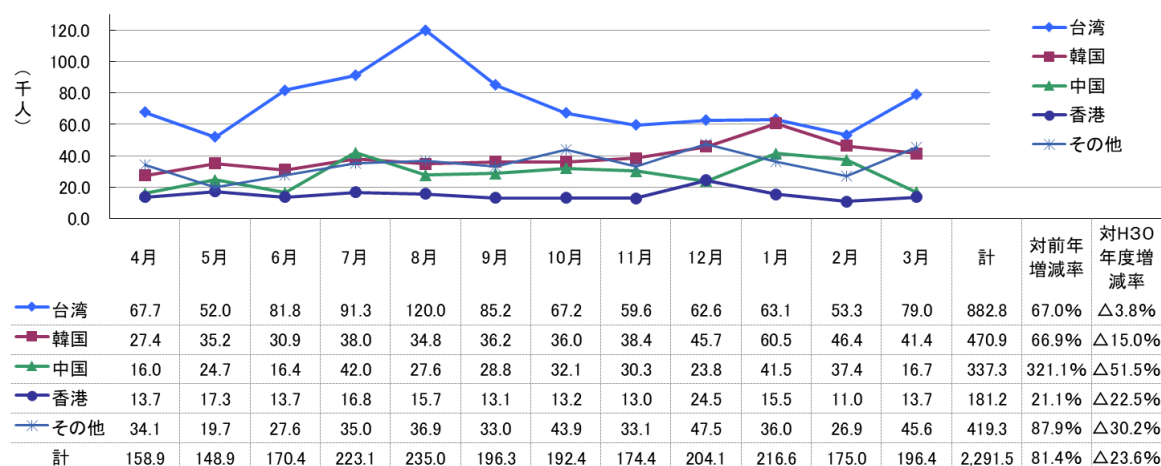
外国人観光客についての動向

■令和6年度外国人観光客の状況（令和5年度・平成30年度との比較）

(千人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度	158.9	148.9	170.4	223.1	235.0	196.3	192.4	174.4	204.1	216.6	175.0	196.4	2,291.5
令和5年度	66.7	69.9	77.7	115.2	96.4	106.6	115.4	91.1	95.2	120.4	144.8	164.1	1,263.5
増減数	92.2	79.0	92.7	107.9	138.6	89.7	77.0	83.3	108.9	96.2	30.2	32.3	1,028.0
増減率	138.2%	113.0%	119.3%	93.7%	143.8%	84.1%	66.7%	91.4%	114.4%	79.9%	20.9%	19.7%	81.4%
平成30年度	276.8	316.3	275.1	290.8	300.0	230.5	246.5	191.1	177.2	229.8	240.1	226.6	3,000.8
増減数	-117.9	-167.4	-104.7	-67.7	-65.0	-34.2	-54.1	-16.7	26.9	-13.2	-65.1	-30.2	-709.3
増減率	-42.6%	-52.9%	-38.1%	-23.3%	-21.7%	-14.8%	-21.9%	-8.7%	15.2%	-5.7%	-27.1%	-13.3%	-23.6%

■外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



【市場別の動向】

台湾 航空路線では、那覇－台北路線の新規就航があったほか、基隆、高雄発のクルーズ船が多数寄港したこと等により、平成30年度の96.2%の水準まで回復した。

韓国 航空路線では、下地島－仁川路線の新規就航や那覇－仁川路線の再開・増便があったこと等により、平成30年度の85.0%の水準まで回復した。

中国本土 航空路線では、那覇－福州路線の新規就航等があったほか、厦門、上海発のクルーズ船が多数寄港したこと等により、平成30年度の48.5%の水準まで回復した。

香港 香港発のクルーズ船が多数寄港したこと等により、平成30年度の77.5%の水準まで回復した。

■外国人観光客の概況

令和6年度は、航空路線の再開・新規就航、クルーズ船寄港回数の増加等により、前年度比で102万8,000人の増(81.4%増)となった。平成30年度と比べると、航空路線の復便や新規就航、クルーズ船寄港回数の増加等に伴い段階的に回復しているが、中国本土便など一部航空路線やクルーズ船の運休の影響により76.4%の水準となっている。

令和7年度は、航空路線において那覇-台北/台中/上海/シンガポール/バンコク便の増便(3/30～)をはじめ、新石垣-香港/仁川路線の新規就航(4/3～)、新石垣-台北路線の新規就航(5/28～10/25)があること、大型クルーズ船の寄港も多数予定されていること等からさらなる回復が見込まれる。